

高知県知事

濱田 省司 様

要 望 書

土佐清水市経済団体連絡協議会

要 望 書

2年以上に渡る新型コロナウイルス感染症は、今後も一定水準の新規感染が生じる傾向は続く想定され、感染リスクをゼロにすることは難しく感染拡大防止と経済活動のバランスを取りながら必要な施策を速やかに実現することが求められています。

濱田知事におかれましては、5つの基本政策と3つの横断的政策を掲げ、常に県民視線を基本に産業経済の振興をはじめ社会福祉の増進など、新たな政策を推進していかれることと大いに期待をしております。

また平成21年にスタートした「産業振興計画」は第4期となり、「付加価値や労働生産性の高い産業を育む」と「ウィズコロナ・アフターコロナ時代への対応」を戦略の方向性と掲げ、現在の課題に対応するため、「経済成長の原動力となるデジタル化・グリーン化・グローバル化など産学官民連携によるイノベーションの創出」や「関西圏との経済連携の充実強化」のほか、「輸出を見据えた地産外商のさらなる推進」などの5つの重点ポイントのもと施策が大幅に強化されました。

幡多地域におきましても、44項目ものアクションプランを採択して頂く等、地域の産業育成・発展に数多くの支援策を日頃より創設・実施されていることに感謝申し上げます。

今、コロナ禍等により事業者には、急速なデジタル化への対応が求められています。が、当地では零細な個人事業主が多く、さらに人口減少・高齢化が進んでいます。

また長引くコロナ禍の中で、職種間による所得格差が拡大し、現場で働くことしかできないテレワークに不向きな業種・職種（対面サービス業）が存在し、また、テレワーク環境が十分に整備することのできない低所得層も多く、所得格差とデジタル格差による経済格差がさらに増大している中、基幹産業の観光業を含めた各産業がコロナ禍の長期化や急激な円安・原油高による、物価高騰により経営に大きな負担増加となっています。

この深刻な現状を受け止め、市内各経済団体（25団体）が連携を密にし、地域が一体となって関係機関への要望・陳情を強力に展開し、地域の産業経済の発展等に最善を尽くさなければならないと強い決意を新たにしているところです。

県当局におかれましては、一段と厳しい財政状況であると認識しておりますが、持続可能な事業者の経営対策を喫緊の重要課題と位置づけ、次の諸施策の実現について格別のご高配を賜りますよう、引き続き強く要望します。

1. ジョン万次郎NHK大河ドラマ化実現の支援について

ジョン万次郎NHK大河ドラマ化実現に対して、高知県知事には名誉会長にご就任いただき、高知県全域、姉妹都市、全国のジョン万次郎会及びジョン万次郎・ホイットフィールド友好協会等で組織した高知県実行委員会を中心に、署名収集活動や要望活動を展開しているところでありますが、ご承知のとおり令和2年以降は新型コロナウイルス感染症の拡大により署名活動や要望活動も制限、自粛を余儀なくされています。

このような中で、すでに令和6年のドラマは、「光る君へ」の放映が決定されています。今日まで、ジョン万次郎愛好者をはじめ関係者一同、県知事や県当局、沢山の方々の応援や支援等をいただいたもののこのような残念な結果となりましたが、これまでのメディア・各媒体での発信等のご支援に対しまして心から感謝申し上げます。

NHK大河ドラマ化の誘致は各自治体間による、争奪戦の様相を呈しており、ジョン万次郎の場合、米国・沖縄県・鹿児島県・東京都・高知市・土佐市など、各地域との関連が生じていますので、各地域との連携及び高知県全体での取り組みが不可欠であると認識しています。

今後共、ドラマ化実現を目標として、各地域及び県内関係団体等との連携を図りながら取り組んで参りますので、さらなるご支援とご協力を是非ともお願いいたします。

2. 国道321号の高台ルート整備について

土佐清水市は南海トラフ巨大地震発生時、清水港・あしずり港の両側から大津波が中心市街地全体に押し寄せると予測されています。

住民の高台避難や市内医療拠点へのアクセス網の確保、「経済活動の道」停滞を少しでも解消するための対策として重要な「命の道」の役割を果たす、国道321号市街地間の高台ルート整備については、地震・津波対策と合わせ将来の市街地の姿として「土佐清水市まちづくり構想」が取りまとめられ、この構想に基づき市関係部署・高知県道路課及び清水土木事務所の関係者による勉強会を開催するとともに、県当局に対して数回にわたり要望を行ったと聞いています。

南海トラフ地震の発生確率は年々待ったなしの状況になっており、早期の対応により、市民の生命・財産を守らなければなりません。災害時に高齢者をはじめ社会的弱者等が高台へ直ちに避難できる街づくり、真に豊かな暮らしができる街づくりに一日でも早く実現が可能となるよう速やかに課題克服し、取り組んで参りたいと思いますので、引き続き県当局の全面的なご協力を賜りますようお願いいたします。

3. 機能強化のための基地拡張支援について

今世紀前半に予測される南海トラフ巨大地震の津波により、国道 321 号は全長 84km の約 45%が浸水し、また部分的にも崩壊の恐れがあると指摘されています。

また、本市までの道路啓開日数は 17 日と想定され、この想定災害が発生しますと、四国西南地方への食料・医薬品等住民の生命に関わる緊急物資輸送は、高速道路未整備のため不可能となり、いわゆる陸の孤島状態になることは必至であります。

この対策として、食料・医薬品等の緊急物資輸送手段は、空輸に依存する方法が最も重要視されていますので、県西部の応急救助活動拠点の一つとして、航空自衛隊土佐清水通信隊分屯基地を緊急物資備蓄や給油施設も備えたヘリポート基地として拡張整備することが必要と考えます。

高知県におきましても、その必要性に基づき、防衛省へ政策提言として要望をいただいているところであり、当分屯基地ヘリポート関連施設等建設のための基地拡張を早期に実現にできますよう、引き続き防衛省等関係当局への要望等のご支援を賜りたく、よろしくお願い致します。

令和 5 年 2 月 2 日

土佐清水市経済団体連絡協議会

会 長 程 岡 庸

高知県観光振興部長

山 脇 深 様

要 望 書

土佐清水市経済団体連絡協議会

要 望 書

県観光振興部長はじめ関係当局におかれましては、コロナ禍で新たな観光対策や観光客誘致に取り組まれ、本県の観光需要の早期回復や産業経済の振興に最善を尽くされていることに対して、深く敬意と感謝を申し上げます。

当地域は、観光産業が基幹産業であり、また複合産業として地域経済を牽引して参りましたが、本市観光産業の中で高い部分を占めていた長距離観光バスの安全基準等の影響を受け、団体観光客の減少が顕著になるなど、当地域の各産業経済に大きな影響を及ぼしてきました。

こうした中、2019年12月に中国を発生源とする新型コロナウイルス感染症が報告され、日本においてもこれまでに7度にわたる感染者数のピークを招き、全国や対象地域を限定した緊急事態宣言が発出され、外出自粛要請に加え、娯楽施設、飲食業などを対象とした休業要請がなされたことを受け、観光産業・サービス業・飲食業を中心に個人消費が急減してきました。また、海外との往来が制限され、インバウンド客数が消滅しました。

猛威を振るった新型コロナウイルス感染症の第7波は8月下旬にピークを迎え、10月からは国が実施する全国旅行支援が始まる等、交流人口（観光客）の誘致拡大には大きな期待が持たれているところですが、観光は本市産業の大きな柱であり、コロナ収束後を見据えた「ナショナルパーク」へと磨き上げる必要があります。観光の拠点でもあります竜串観光区域内へ「スノーピーク土佐清水キャンプフィールド」や「竜串ビジターセンター」、県立新足摺海洋館「SATOUMI」がリニューアルオープンし、前面に広がる海と一体となった観光施設と本県（市）の強みでもある歴史・食・自然等の資源を最大限生かしたプロモーションを展開し、何度でも行ってみたい魅力ある観光地づくりを目指して、さらなる誘客につなげる必要があると認識するところです。

県当局におかれましては、本県観光の課題解決に向けた取り組みや、また厳しい財政状況があると認識しておりますが、観光客誘致拡大等を重要課題として位置づけ、次の諸施策の実現について格別のご高配を賜りますよう、要望する次第であります。

要望事項

1. インバウンド観光の推進について

観光は地方創生の切り札との認識の下、国策として目標を掲げた取り組みから、インバウンド需要は右肩上がり推移してきましたが、新型コロナウイルス感染症に伴い、2021年の訪日外国人旅行客数は24万人、前年比94.0%の減となりました。高知県におきましても大きく減少し、本市の外国人観光客は10人（前年比97.5%減）となりました。

要因として、コロナ感染症の影響が大きいのはもちろんですが、訪日旅行者間では知名度の低さやアクセスの課題が挙げられます。

訪日観光客の需要やニーズの把握・言葉の相違に多言語表示、案内看板・地図「Wi-Fi」などの受け入れ環境整備には多大なご配慮頂いておりますが、まだまだアクセス環境が整っていない面があるものと認識しております。

コロナ禍の終息は見えない状況ではありますが、インバウンド需要をコロナ前の状態に戻すことは高知県全体の必須課題でもあり、それまでの間、観光関連産業の雇用の維持と事業継続の支援を受けながら観光基盤の整備が必要と考えます。

県当局の外国人観光客の誘客に向けた対応については、市場ニーズにあった旅行商品（個人旅行者向け等）の販売やプロモーション活動、旅行会社やメディアとのネットワークの強化など、積極的な取り組みをして頂き感謝すると共に、コロナとの共存と「アフターコロナ」見据え、増加が見込まれる訪日客の受入対策やグローバルな観光対策の一環として、計画がストップしている高知龍馬空港の拡張工事の推進などインバウンド観光の課題解決に向け、具体的な取り組み及び予算措置を講じていただきますようお願いいたします。

2. しまんと・あしずり号の継続運行について

県当局におかれましては、継続運航の財政支援や運行内容の磨きあげなどご支援につきましては感謝を申し上げます。

中村駅発着、足摺・竜串エリアを観光周遊するこのバスは、本市を含めた幡多エリアの観光には欠かせない移動手段となっています。

コロナ感染症による利用率が低迷していますが、コロナ禍において増加傾向にある個人客のニーズ等に対応する為、来年度以降も引き続き、継続運行可能な環境整備を調整していただきますよう要望いたします。

3. 「リョーマの休日キャンペーン」等の取組みについて

長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、インバウンド観光の需要は消滅し、さらには国内においても旅行のキャンセル、予約控えや委縮自粛の影響を受け、観光需要は大きく減少し、全国の旅行業、宿泊業はもとより、多くの産業に深刻な影響が生じ、観光産業が基幹産業とする本市の産業も大きな打撃を受けました。

コロナウイルスとの共存と「アフターコロナ」を見据え、本市の強みでもある自然、食を磨き上げるなかで「スノーピーク土佐清水キャンプフィールド」や「竜串ビジターセンター」、「新足摺海洋館（SATOUMI）」、これら施設と自然を生かした体験プログラムの連携を密にしながら、持続的な観光振興につなげていく必要があります。

現在、県当局におかれましては、「リョーマの休日キャンペーン」事業として、「観光トク割キャンペーン」や「観光リカバリーキャンペーン」など、様々なキャンペーンに取り組んで頂いており感謝するところでありますが、まだまだコロナ禍の影響も拭えない状況にあることから、来年度以降も引き続き観光支援策やキャンペーンなどの展開を強く要望いたします。

令和5年2月2日

土佐清水市経済団体連絡協議会
会 長 程 岡 庸

4 高政企第 299 号
令和 5 年 2 月 20 日

土佐清水市経済団体連絡協議会 会長 程岡 庸 様

高知県知事 濱田 省司
(公 印 省 略)

土佐清水市経済団体連絡協議会からの要望事項について (回答)

令和 5 年 2 月 2 日付けで要望のありました事項につきまして、別添のとおり回答します。

<担当者>

高知県総務部政策企画課 寺尾、山崎

TEL (088)823-9332

FAX (088)823-9267

Mail 111601@ken.pref.kochi.lg.jp

1 ジョン万次郎NHK大河ドラマ化実現の支援について

(観光政策課)

(答)

本県を題材にした大河ドラマの放送は、観光において大変大きな効果が期待できます。

また、グローバル化の進む時代にあって、ジョン万次郎のような偉人の活躍を全国的に広く発信することの意義は大きいと考えております。

これまで、県としては、ジョン万次郎の功績を顕彰していくため、生家復元や資料館の整備、企画展などの取組に対する支援を行ってまいりました。

大河ドラマ化の実現に向けましても、これまで、実行委員会に参画し要望活動などを行ってまいりました。引き続き、地域の皆さまと連携して粘り強く要望活動を行ってまいります。

併せて、引き続きセールス・プロモーションの中で、ジョン万次郎資料館などの観光資源をしっかりとPRしてまいります。

1 インバウンド観光の推進について

(国際観光課)

(答)

インバウンド観光については、昨年10月に訪日水際対策が大幅に緩和され、今後本県を訪れる外国人観光客の回復が見込まれるところです。

本県では、海外での認知度向上を図るため、台湾・香港などの重点地域に向けて、動画や現地メディアを活用したプロモーションを行っております。この中で、足摺岬や竜串海岸などの美しい景色や体験プログラム等の情報発信を積極的に行っています。

また、受入環境整備につきましては、竜串地域の再整備をはじめ、多言語対応やWi-Fi環境の整備等を行ってきました。

さらに、土佐清水市において、足摺温泉郷の宿泊施設を対象にした高付加価値化の取り組みを進められていると伺っており、さらなる魅力向上につながるものと思っております。

令和5年度においても、引き続き、プロモーションやセールス活動において土佐清水エリアの魅力を伝えるとともに、土佐清水市と連携しながら、受入環境整備や観光資源の磨き上げを進めたいと考えています。

高知龍馬空港の国際化につきましては、昨年12月に「高知龍馬空港・航空ネットワーク成長戦略会議」を開催し、検討を再開したところです。回復しつつあるインバウンド観光需要を確実に取り込んでいけるよう、この整備の検討と併せて、国際チャーター便の積極的な誘致活動などに取り組んでまいります。

2 しまんと・あしずり号の継続運行について

(地域観光課)

(答)

しまんと・あしずり号の運行を安定的に継続していくためには、できるだけ多くの方に利用いただくことが何よりも重要です。

そのため、これまでも、幡多広域観光協議会を中心に、地域の皆様と協働で、運行コースの見直しや、交通機関等とのセット券の販売、割引特典など、利便性の向上や運行内容の充実に取り組んでまいりました。

今年度からは幡多広域観光協議会が実施主体となり運行されており、より観光客のニーズや地域の実情に即した事業展開がなされることを期待しています。

県としましても、旅行会社への説明会やセールス、プロモーションなど様々な機会を通じて、しまんと・あしずり号に関する情報を積極的に発信してまいります。

今後とも、しまんと・あしずり号の継続運行に向けて、幡多広域観光協議会や地域の皆様とも連携して取り組んでいきたいと考えております。

3 「リョーマの休日キャンペーン」等の取組みについて

(観光政策課)

(答)

土佐清水市の皆さまには、豊富な食資源や竜串エリアにおける自然・体験資源、ジョン万次郎資料館をはじめとする歴史資源などを生かして、これまでも積極的に観光振興に取り組んでいただいているところです。

県では、今年度の「リョーマの休日」キャンペーンを通じて、本県の強みのひとつである「食」とともに、それを生み出す地域の方々を前面に打ち出し、旅行会社のセールス活動をはじめ全国に向けてプロモーションを行ってまいりました。

さらに、県独自に交通費用を助成する高知観光リカバリーキャンペーンを継続するとともに、国の施策を活用し、高知観光トク割キャンペーンを実施することで、長引くコロナ禍の中でも有効な需要喚起策も進めてきたところです。

現在、徐々に観光需要が回復してきている状況を鑑みて、今後は、こうした需要喚起策ではなく、県観光自体の魅力による誘客を目指していく必要があると考えています。

こうした中、令和5年度は、高知県観光博覧会「牧野博士の新休日～らんまんの舞台・高知～」の開催を予定しており、連続テレビ小説「らんまん」の放送という絶好の追い風を生

かし、地域の皆さまと一体となって誘客を図り、県内各地への周遊を図ってまいります。

今後とも土佐清水市をはじめ、地域の観光関係の皆さまと連携をしながらコロナ禍からの反転攻勢を進めてまいりたいと考えています。